



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
9/11 (月)	+ 1,000	+ 8,400	+ 9,400	物価連動債償還 (10年) 国庫短期証券発行・償還 (3M) 国庫短期証券発行・償還 (6M)	CP等買入 ▲ 300 社債等 ▲ 100 国債補充供給 + 24,400	国債買入 + 17,500	日: マネーストック(8月)
9/12 (火)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000				
9/13 (水)	トン	▲ 35,000	▲ 35,000	国債発行 (5年) 源泉所得税揚げ	共通担保 ▲ 8,800		日: 企業物価指数(8月) 米: CPI (8月) 欧: ユーロ圏鉱工業生産 (8月)
9/14 (木)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000				米: PPI (8月) 新規失業保険申請件数(9日終了週)
9/15 (金)	▲ 1,000	▲ 9,000	▲ 10,000	国債発行 (20年) 個人国債発行・償還	貸出増加支援 ▲ 13,000		米: ミシガン大学消費者マインド指数(9月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、税・保険揚げを主に、前営業日対比2兆6,500億円減少の541兆4,100億円から始まった。その後も国債発行等により減少傾向で推移し、週末となる8日には、539兆1,400億円 (速報) まで減少し越過となった。

無担保コールON物は週初▲0.069%から始まった。その後は一部オファーサイドが放出を積極化させたことで、同金利は6日に▲0.076%まで低下したものの、週末となる8日にはオファーサイドの運用ニーズが一服したことにより、同金利は上昇し▲0.066%(速報) となった。

ターム物は1~2W物を中心に▲0.070%~▲0.030%の広いレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、13日に企業物価指数 (8月)、14日に鉱工業生産 (7月) の公表などがあり、海外では13日に米CPI (8月)、14日に米PPI (8月) の公表などがある。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.0100
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.010

### <レポ>

足許GCは週初から週末まで▲0.13%~▲0.11%のレンジで推移した。6m,3m短国の発行が重なる8日の取引では▲0.09%近辺まで上昇した。

SC取引は2年438~451回債、5年149~160回債、10年350~371回債、20年180~185回債、30年65~79回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

### <CP>

今週の入札発行総額は約5,000億円で、週間償還額 (約7,300億円) を下回った。発行市場は石油や不動産等の一部の業態で大型の発行も見られたが、週を通して落ち着いた展開であった。発行残高は先週末時点の27兆4,218億円から9月7日時点で27兆3,147億円に減少した。発行レートは、0%近辺から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。8日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート-0.003% (前回-0.005%)、平均落札レート0.008% (同0.001%) と按分レート、平均落札レート共に前回比で上昇した。

来週の償還額は約1兆500億円となっている。発行市場は、一部の企業で中間期末の負債調整を踏まえた発行抑制等の動きが想定されるものの、5・10日絡みから相応の発行も見込まれる。発行レートは、浅いマイナスから0%近辺での出合いが中心となるも、金融政策修正の警戒感等から、発行期間の長短に応じてレート水準にばらつきが見られる展開を予想する。

### <TDB>

7日の6M (1180回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1462% (前回債▲0.1423%)、平均落札利回り▲0.1603% (前回債▲0.1618%) となった。8日の6M (1180回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1363% (前回債▲0.1503%)、平均落札利回り▲0.1491% (前回債▲0.1663%) となった。

来週は15日に3Mが予定されている。